

## 「教育と公共」研究部会（第45回）

日時：2023年3月6日（月）13:30～16:15

場所：オンライン

出席：浅井幸子・上野正道・狩野浩二・田嶋一・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員  
山口和人所長・川上智子(野間教育研究所事務局)

内容：(1) 上野研究員：「教育の公共性と民主主義～デューイからビースタへ～」(紀要論文の骨格)

◆教育と人間と社会を取り巻く変化

- ・19・20世紀型の国民国家型・産業主義社会型の教育と人間
- ・21世紀の知識基盤社会における教育と人間
- ・教育の未来への展望：世界の中で、よりよく生きるとは？これからの人間と社会とは？

◆新学習指導要領で強調される「主体的・対話的で深い学び」

- 1 社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」を育む
  - ・生きて働く「知識・技能」の習得
  - ・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
  - ・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養
- 2 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
  - ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
  - ・カリキュラム・マネジメントの確立
- 3 デューイとビースタの教育と民主主義の問い
  - ・デューイやビースタが探究した民主主義の問いはどこに位置づけられるか？
  - ・自律的・構成主義的な学習観と、世界への参入としての教育
  - ・認識論、関係論、内容論、存在論⇒民主主義と公共性論

(2) 狩野研究員：島小第8回学校公開研究会〈教材の解釈と展開〉昭和37(1962)年12月実施  
赤坂里子学級の授業の記録を検討

- ・赤坂は武田常夫(8回)に次いで多くの公開研究会授業(7回)を担った。この時は「黒いビロード服の女性」(丸岡秀子、昭和32年、池田書店『中国・十二の物語』所収)を教材として使用。授業案は、“教授学研究会”事務局で元小学館編集者の松本陽一が管理していた謄写版刷りの島小公開研究会資料を電子化したもの。翌昭和38年5月、明治図書出版の『現代教育科学』61号で島小特集が生まれ、そこで赤坂はこの授業の実践記録を執筆。
- ・以上残された記録に即して、島小教諭・赤坂里子の国語授業での葛藤を振り返る

・次回研究会 2023年4月28日(金)13:30～